

確かな知識にうらづけられた実践ができるであろう。

< 仮説のための理論 >

① 指導過程

問題をとらえる — 見通しをたてる — 実証する — 身につける — 生活に生かす の段階をふむ。

問題解決につながる基本的な学習を考え、その過程で育つ生活処理の考え方、能力、実践力をのばす。

② 原理がわかるとは

実習の根拠となる科学性を見出すこと。

③ 実験の条件について

◦ 基礎的・基本的なもので、それを明らかにしておくことと学習の基礎となり、いろいろな場面での生活行動が能率よく合理的にできるもの

◦ 理論や予測を明らかに実証しうるもの、知識・理解を確実にするための実験だから明確な結果が得るもの

④ 実践とは

◦ 学習した結果を生かそうとする身構えや姿勢をもつ

◦ 学習した結果を行動化する

3 計 画

- (1) 方法 一群法による
- (2) 対象 6年5組 41名(男23名 女18名)
- (3) 組織 個人研究 必要に応じて同学年の協力を得る

4 研究の概要と考察

(1) 研究の経過

① 検証までの準備

は仮説との関連

- 検証対象学級の実態調査
- 児童の興味・関心、経験などの把握
- 事前、事後、把握テストの問題作成
- 文献研究
- 繊維の鑑別 ◦ 繊維の性質と特徴
- 布地の再汚染 ◦ 指導過程
- 洗濯時間と汚れのおちる割合
- 資料の準備
- 繊維の性質と特徴の表
- くりかえし洗濯をした場合の再汚染率

② 検証授業計画

ア 題材名 衣服の手入れ

イ 指導計画 6時間

衣服の手入れ

- (1) 布地の種類とせんたく…………… 2時間
 - 布地の種類 ……………(1)検証授業(1)
 - 布地に適した洗剤の選び方…(1)検証授業(2)
- (2) せんたくのしかた…………… 2時間
 - 布地の汚れに応じたせんたくのしかた……………(1)検証授業(3)
 - 電気せんたく機と手洗い……………(1)
- (3) せんたくの実習…………… 2時間

ウ 検証授業〔1〕 第1時

布地の種類～ 燃焼実施 (省略)

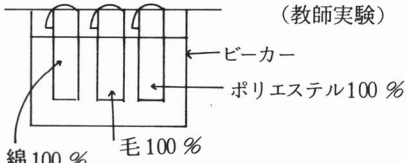
検証授業〔2〕 第2時

(ア) 題材 布地に適した洗剤の選び方

(イ) 本時のねらい

- 布地の性質を理解させ、洗濯物の品質表示を見て布地にあった洗剤を選ぶことができる。

(ウ) 指導過程

学 習 活 動 ・ 内 容	時間 (分)	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 繊維の性質について調べる</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ アルカリに対する繊維の性質の実験 <p>5%の水酸化ナトリウム溶液中に三種類の試験布を入れ変化のようすを観察する。</p>  <p>(教師実験)</p>	<p>15</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 日常多く用いられている綿、毛、化学繊維のほかに混紡も多いので品質表示で確かめさせ、それぞれの繊維には特徴があることに気づかせる。 ◦ 実験により毛はアルカリに弱いことに気づかせ、洗剤との関係に目をむけさせる。
<p>2 洗剤の種類について調べる</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 石けん 	<p>15</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ アルカリに対して弱い繊維には中性洗剤を使うとよいことをわからせる。